



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第94号

2020. 9.30

# ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

投稿・翻訳

文責：北原俊之

## ピアソン宣教師の両親について

エリザベス市の新聞『エリザベス・デイリー  
ジャーナル』掲載の追悼記事を読む

ピアソン会理事の伊藤悟さんが  
プリンストン大学で資料の中に見  
つけたピアソン宣教師の父親の追  
悼記事と、私がウェブ上で見つけ  
た母親の記事は、どちらもかなり  
行数が多く、生前の功績が大きか  
ったことを示しています。ピアソ  
ン宣教師の育った環境がよく理解  
できるように思います。

1889(明治22)年10月31日(木)

デイヴィッド・H・ピアソン

急逝した本市の功労者  
その生涯を短くまとめました

牧師デイヴィッド・H・ピアソ  
ン博士は、昨晚、ノース・ブロー  
ド通り926番地の自宅で急逝し  
ました。当市にとり真にかけがえ

のない人を失うこととなります。  
73年の生涯を通しての活躍は、ク  
リスチャンの教育者として敬意と  
感謝をもって記憶され、まさに当  
市の功労者としてたたえられます。  
彼は、生涯の大半を若者の指導に  
打ち込みましたし、同時に、教会  
への奉仕にも尽力しました。

1869年以降、彼は、自宅で  
静養する生活をしていて、何かの  
仕事に取り組むということができ  
ない状態でした。ここ数年は健康  
状態が思わしくないところでした  
が、その最期は、突然予期せずに  
訪れました。昨晚6時頃夕食の最  
中に意識を失いました。彼の義弟  
ジョージ・ベック医師が、診たと  
ころ芳しくない症状なので、当人  
を部屋のベッドに運ばせ、すぐに  
手当を始めました。そのまま意識  
がもどることなく、約2時間後に  
息をひきとりました。

ピアソン博士は、1818年3

月1日コールドウエルの名家に生  
まれました。父親は農場経営者  
でした。初期の教育は、コール  
ドウエルの学校で受けましたが、  
1835年から1836年に当市  
「エリザベス」にあるジョン・テ  
イラー・ハルゼイ牧師の学校に入  
学し、プリンストン・カレッジ進  
学のための教育を受けました。そ  
の後、プリンストン大学とプリン  
ストン神学校で学びました。卒業  
後当市に戻り四年間ほどハルゼイ  
氏の学校で教師として熱心に指導  
にあたりました。

ハルゼイ氏が亡くなって二年ほ  
ど後に、ピアソン博士は、ウエスト・  
ジャージー通りの、「チルトン」と名付け  
て学校を開設しました。学校は生  
徒数が多くなり、サウス・ブロー  
ド通りのトーマス・ビルディング  
に移転しましたが、この学校は後  
にエリザベス孤児院として知られ  
ることになりました。その他にも  
増加する生徒数に対応するため数  
回の校舎移転をした後、ピアソン  
博士は、ノース・ブロード・通り  
沿いのノース・エンドと呼ばれる  
場所に、寄宿生と通学生を受け入  
れる十分な大きさの建物を建築し  
ました。この学校は、1851年  
4月に開校し、「パール・コテージ・  
セミナリー」と名付けられました。  
ここで博士は、校長として教育を

第29回文化サロン de ピアソン

映画会「<sup>うた</sup>大地の詩」

遠軽家庭学校の設立者留岡幸助の物語

- ◎ 10月10日(土)：16時45分～19時まで（開場16時半）
- ◎ 開催場所：ピアソン記念館（北見市幸町7-4-28）
- ◎ 解説者：中山一夫（NPO法人ピアソン会理事）
- ◎ 予約券：500円、20名以内、事前予約必要（中学生以上）
- ◎ 問い合わせ：ピアソン会（電話0157-31-1215）

※詳しくはピアソン記念館HP <http://www.npo-pierson.org/>



お断り！  
新型コロナウイルスの感染状況  
によっては、映画会中止  
になる場合もあります。  
密を避け会話の制限など  
を実施し、少人数制限で  
の映画会となりますこと  
にご理解下さい。

続け成果を上げましたが、1869年、職を辞して、学校をJ・C・ワイコフ牧師に委譲しました。その後、ワイコフ牧師が辞職して数年して、空き家となっていた学校が焼失しました。

ピアソン博士は、教育者として素晴らしい成果をあげ、その名声は広く知られることとなりました。彼の学校には、当市のみならず近隣地域のほとんどの名だたる家庭の男子が学んでいて、現在、その教え子の多くが多方面で顕著な活躍をしています。例をあげていえば、ウィリアム・J・マギー牧師、パターソンの牧師デイヴィッド・マギー博士、もと当市にいて現在はオレンジの牧師ルドロー博士、現在レイク・フォレスト大学の牧師W・C・ロバート博士など。

ピアソン博士は、正規の牧師として度々任をうけ、一時期、ライアンズ・ファームズ教会 [Lyons' Farms Presbyterian Church] を任されたこともありました。代理牧師としても数多くの説教壇に立つたことがあり、ウエストミンスター [プレスビテリアン] 教会では、ロバート牧師がヨーロッパ訪問で不在の際に代理を務めたこともありました。博士号は、プリンスストン・カレッジで取得しました。

ピアソン博士の死後は、オレンジのアーロン・ペック氏の娘さん

である奥様が遺族として遺されました。ピアソン夫人の弟にあたるジョージ・ペック医師は、合衆国海軍の医長を務めていて、家族とともに当市に居を構えています。

ピアソン博士には、息子が三人いて、ジェームズ・Aとデイヴィッド・H・ジュニアの二人はニューヨークで商業を営み、当市に在住、ジョージ・ピアソン牧師は、二年前にウエストミンスター教会で牧師の任命をうけ、現在、日本の東京で宣教師をしています。また、博士には二人の娘がいます。

1902(明治35)年5月12日(月)夕刊 一面

### デイヴィッド・H・ピアソン氏の夫人

故・牧師デイヴィッド・H・ピアソン博士の夫人のキャロライン・ピアソンが、昨日午後、ノース・ブロード通り926番地の自宅で亡くなりました。

ピアソン夫人は、故・アーロン・ペック氏の娘として、1821年9月1日イースト・オレンジで生まれ、1844年に結婚をして当市に居住し、これまで33年間住んでいた現在の自宅にて亡くなりました。

近年は長らく病弱ではありましたが、つい2週間ほど前までは、馬車で友人と出歩くことができいました。

ピアソン夫人は、長年、高齢女性老人ホームの経営者の一人として運営に携わっていて、自身の健康状態と体力に支障がない限りは、欠かさず出勤し、運営委員会にも参加して、彼女の企画や助言が皆から大いに求められていました。彼女は、1866年ウエストミンスター・プレスビテリアン教会創立時からのメンバーであり、教会の伝道活動、付随する教会の活動や細々とした雑事などあらゆることに積極的に熱心に関わりをもっていました。

彼女の情熱は決して衰えることなく、後年になっても、教会とその組織には最大限に情熱を注いでいました。彼女は魅力的な性格の持ち主であり、彼女と知り合えたことが喜びであることを感じた多くの人から敬意を集めていましたので、彼女が逝去したことで、多数の方々が、真の献身的友人を失ったことを実感するでしょう。

夫人の夫は、著名な牧師であり教育者で、1889年10月30日に亡くなりました。彼女には、ジェームズ・A、デイヴィッド・H、ジョージ・P・ピアソン牧師(日本で宣教師をしている)、の三人の

息子がいます。また、ミス・メアリ・H・ピアソン、ウィリアム・S・ビゲロー氏夫人の二人の娘がいます。孫は、ジョン・ラルストン・ピアソン、キャロライン・ピアソン、ビゲローの二人がいます。

~~~~~

### 四角 死亡欄

#### ピアソン夫人

1902年5月11日(日)

キャロライン・ペック、故・牧師デイヴィッド・H・ピアソン氏の夫人。

葬儀は、5月14日午後2時、当市、ノース・ブロード通り926番地の自宅で行われる。埋葬は近親者のみ。供花はご遠慮申し上げます。



9月7日の月曜日に(通常は休館日ですが、団体などの場合は検討し対応することが可能)、横浜から企画名「北海道のキリスト教宣教師の歴史などに焦点を当てた巡礼の旅」の団体一行をお迎えいたしました。

12名の団体で、ピアソン宣教師の北海道での宣教師活動を熱心に調べていかれました。コロナ下での企画であるので、どうしても日程の都合で、月曜日になってしまつたとのこと。北海道の思い出1日となれば嬉しい限りです。

**素晴らしい来館者!**



# 「ニュージーランドからの便り」第24回



ピアソン会顧問  
G・ハード氏

2020.7.29

◆先日、弟と私はもう一つの北の方タンギテロリアへドライブしました。そこは、1836年に先祖のジェイムズ・ウォリス牧師（祖父）がウエスリー・メソジスト伝道地区の基礎を置いたところでした。タンギテロリアはワンガレイとダルガヴィルの間を通る道路の小さな村で、ダルガヴィルのカイパラ湾に流れ込むノーザン・ワイロア・リバーの支流にあります。

◆村で、伝道地区の農家へ行く道を教えられました。そこで温かく迎えられ、農家のそばの芝生にあったのは小さなケルン。1936年に伝道基地設立一〇〇年記念として立てられました。ジェイムズ・ウォリス牧師は、当時英国教会とメソジスト伝道局の地域の変更合意によりラグランの基地から、タンギテロリアに移動することを要請されました。しかし、短期間でラグランへ戻ることができ、そこでの伝道を何年間も続けました。タンギテロリアが伝道基地として選ばれるのは変な話でしたが、おそらく、それは重要なマオリ居留地であり、当時は交通の要衝だったのでしょう。今は、本当に静かな田園地域です。

◆ダルガヴィルへと進み、優れた地域歴史博物館を訪ねました。そこはカイパラ湾と町が見渡せる素晴らしい眺めの丘の上にあります。そんなわけで、とても爽やかな喜ばしい一日でした。弟が撮った写真。

2020.8.13

◆二日前、歓迎できないニュースは、国境がらみではないけれど、サウス・オークランドで新感染症の発症でした。オークランド地域は再びレベル3の口



ツクダウンになり、公益事業は機能していませんが、できる限りのステイホームとソーシャルディスタンスが要請されています。政府は緊急措置をとったので効果が期待されます。この地域の移動は制限されて、ワンガヌイへは行けそうもありません。9月には行きたいのですが、様子見です。

◆総選挙が9月19日の予定ですが、延期になるかもしれないですね。春の兆しはつきりとして、シエークスピア公園では子羊たちが生まれ、順調のようです。車の道すがらミツバチたちがピンクの椿に群がっています。最近の雨で、庭の池には水が満ち、最初の睡蓮が水面に現われ始めました。

2020.8.28

◆日中は心地よい春の天候で、プラムの木に最初の花々が咲きました。

◆携帯電話がうまく送受信できず、改善できないので、代わりにコンピュータに頼っています。幸いよく作動してますが、簡単でも便利でもありません。

◆最近、幾つかの新感染症再発でオークランドはレベル3です。うまき管理されているので、来週月曜日（8/31）レベル2になると良いのですが。一方では、できる限りのステイホームで、多くのビジネスも閉鎖されています。

◆昨年のクライストチャーチで、テロリストによるモスク攻撃をした男に判決が出ました。彼は有罪を認め、ニュージーランドで可能な最も強い限度の、仮釈放なし無期懲役刑が下されました。犠牲者たちの家族は、法廷で彼に思いの丈を述べられても、一時のことで想像しがたい犯罪のことはいつまでも消え去らないでしょう。

◆家族のことで大事なお知らせです。数ヶ月前、姉一家が今後の住居について良い結論を出し、家を買りました。フアンガバラオアを離れて未娘の住むH・ポイントの娘一家の隣に家を購入。上の娘一家にも近くなります。この美しい風景や庭を離れるのは寂しく、私もちょっと遠くなるのが寂しいです。転居の9月3日が晴天で感染症の影響がないよう願っています。新居はモダンで、広々とし、小さな庭もあり快適です。

◆先日、水津さんから頂いた本を読みました。戦前、戦中、戦後のことが書かれていて、生き生きとした描写に思いを新たにしました。お会いする機会がありましたら、改めての感謝をお伝えください。

◆風景画家ジョン・コンスタブルとソルズベリ大聖堂の副監督ジョン・フィッシュャーの書簡交流録を読みました。フィッシュャーと家族はコンスタブルの強い支え手でもありました。フィッシュャーはコンスタブルが無名の時からよく理解し、お互いに共通する人生観を抱いていました。この書籍もまたワンガヌイのロータリーブックフェアでの宝物です。

## 芸術の秋

# クラシックギター”生”コンサート終了報告

新型コロナの感染が始まってから、当記念館で開催予定の各種行事は、これまで全て見合わせていましたが、9月26日（土曜日）の午後5時より、第28回文化サロンdeピアソン「クラシックギターコンサート」を条件付きで開催することができました。奏者は地元でギター教室を主宰している森元裕太氏。今年度初めての自主事業となりました。通常のコンサート時の半分の25名限定での開催、人と人との間隔を取るために展示ケースを撤去せず使用し、密を避けたコンサートとなりました。そのため、予約チケットは早くから定員の25名枠に達し、多くの方にはお断りしなくてはなりませんでした。お許しください。



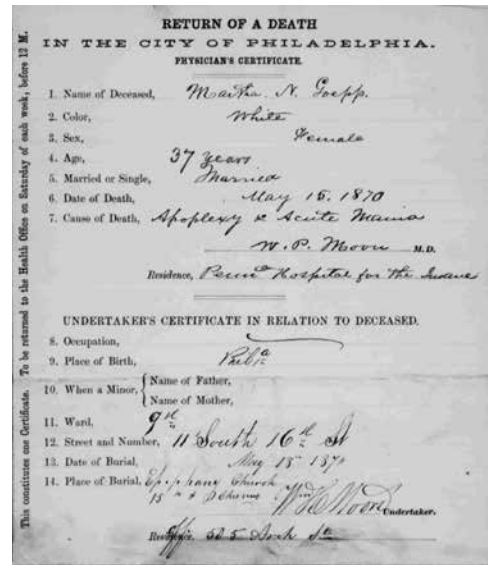
写真上/コンサートは、ルネッサンス音楽の典雅な曲目から始まりました。

# ピアソン夫妻資料収集記 補遺(2)

ピアソン会理事 玉置 義弘

## アイダ・ゲップ夫人の母親の死亡記録と叔父について

アイダ・ゲップ夫人の母親マーサ (Martha Neal Cowpland Goepf 1833 ~ 1870) の死亡記録を見つけることが出来ました。それによると彼女は1870年5月15日に亡くなっています。死亡原因は脳出血と「急性○○」と書いてありますが「急性○○」の部分が見られません。37歳で亡くなっていますので、当時としてもかなり若いといえます。この記録を見るまで、アイダ・ゲップ夫人の母親は、おそらく結核などの病気で亡くなったかと思っていたのですが、5人の子供たちを残しての急死だったことがわかりました。詳しい状況が書かれた記録は見つかっていませんが、もしかすると馬車などで起きた事故死の可能性も考えられます。残された子どもたちで最年長は14歳のキャサリン (Katherine) で、エレノア (Eleanore) は11歳。アイダ (Ida) は8歳。フィリップ (Phillip) は6歳。一番下のルドルフ (Rudolf) は4歳。父親のチャールズ (Charles) は1827年生まれます。それから、43歳の時の出来事でした。その後、アイダ・ゲップ夫人と弟2人はドイツに住む伯母に預けられます。



写真上/母親マーサの死亡記録。写真左は叔父のヨシユア・コーブランド・Jr.

父親のチャールズがドイツからアメリカへ移住したのは1834年のことでした。チャールズの父親はモラヴィア教会の牧師で、ペンシルベニア州のベスレヘム市 (ドイツから移住したモラヴィア教団によって創設) に一家で移住し、チャールズもモラヴィア教会の牧師を目指して神学校に入学しますが、途中で気が変わって弁護士を志し、1850年にフィラデルフィアに共同で法律事務所を開設。その後ニューヨーク市に移り、1870年に妻を亡くした後、しばらくヨーロッパを旅行。アメリカに戻る途中ニューヨークの海事裁判所の判事に出出されています。姉弟たちを預かった伯母について調べていますが、チャールズには兄マックス (Max) がいて一緒に弁護士事務所を開いていた記録はありますが、姉または妹の記録はまだ未発見です。



アイダ・ゲップ夫人の父親チャールズの墓はフィラデルフィアにあり、妻のマーサと弟のフィリップ、マーサの父親のヨシユア・コーブランド (Joshua Cowpland 1801 ~ 1870) などが合葬されています。アイダ・ゲップ夫人の祖父にあたるヨシユアについて調べてみると、母親の弟、アイダ・ゲップ夫人の叔父も同名のヨシユア・コーブランド・Jr (Joshua Cowpland Jr 1835 ~ 1911) ということがわかりました。彼について調べてみたところ、彼は米国聖

## 手作りマスクの寄贈がありました!

宇都宮に住む下城さんよりさんより手作りマスク20点の寄贈がありました。数年前にピアソン記念館に来られて以来、電話などで情報提供などをしていましたが、8月に無事大学院の課程を修了されたとの電話があり、「おめでとうございます」とお祝いの言葉を伝えたのですが、「ピアソン会の方々でご使用ください」と写真のマスクが送られてきました。当会もすぐに、ハッカスプレーやハッカ石鹸、香り袋など、お礼の手紙と一緒に返礼をしたところです。



写真/送られてきた手作りマスク。カラフルでおしゃれなマスクでした。

## 編集後記

94号をお届けいたします。グリーンコンサートを今年は実施できませんでしたが、ようやく今年度の自主事業で、クラシックギターの演奏会を開催することができました。地元のギタリスト森元裕太氏の演奏を、限定25名の鑑賞者が楽しみました。やはり生の演奏は良いものです。

次年度から5年間の、ピアソン記念館を管理運営する「北見市指定管理者」に、ピアソン会では継続して運営するための申請書を提出。審査会の口頭審査を受け、無事「選定決定」の合格通知を受け取りました。また5年間皆様のお世話になります。よろしくお願いたします。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟

公会の司祭で、フィラデルフィアにある「Church of The Epiphany」で1864年~1865年にアシスタントを務めていた記録があります。アイダ・ゲップ夫人は日本に来た時は、米国聖公会から派遣された宣教師で、ピアソン宣教師と結婚して長老派教会に転会するわけですが、アイダ・ゲップ夫人の父親はモラヴィア教徒なので、アイダ・ゲップ夫人と米国聖公会とのつながりが不明でした。しかし叔父が聖公会の司祭であるなら、それが関係して聖公会の宣教師になったのかも知れません。まだ資料が少ないので確定的ではありませんが、そのような可能性もあるのではないかと考えています。